

涌谷町

八雲神社の祭礼



涌谷町の<sup>しんまち</sup>新町にある<sup>やぐも</sup>八雲神社の境内には、<sup>てんぼう</sup>天保6年(1833)3月に<sup>こんりゅう</sup>建立された<sup>えきびょう</sup>疫病を防ぐ神様である<sup>ごす</sup>牛頭天王の碑があります。天保6年頃は洪水や凶作による「<sup>ききん</sup>天保の飢饉」が起こっていた頃で、疫病も流行し、多くの人々が亡くなりました。碑には「導師<sup>しょうほういん</sup>称法院 新町中 新横丁中 河原町中」と刻まれており、周辺地域の<sup>まぬが</sup>方々が厄から免れたいという願いが込められていることが分かります。



八雲神社はこの牛頭天王碑がある所に建立され、例大祭は7月第4週目の日曜日です。その前日には「かっぱまつり」が開かれます。古くから祭りの時には社殿に「きゅうり」がお供えされ、疫病や水難から逃れることを祈願したことから、「かっぱ様」と呼ばれています。

神社や牛頭天王の碑は、新型コロナウイルス感染症など、悪い病気が町で流行らないよう、かっぱの像とともに、今なお見守り続けています。